

## 年頭のごあいさつ

### 新しいまちづくりに向かって

市民の皆さん、明けましておめでとうございます。

皆さんにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日ごろから市政に対する温かいご支援とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、元号が「令和」となり、新たな時代の幕開けに多くの方が希望と喜びを感じた年となりました。

私も新元号のスタートとともに、春の統一地方選挙におきまして、市民の皆さんの多くのご支援とご厚情により、この度も無投票ではありましたが、皆さんからの大変重い信託をいただき、二期目の市政を担わせていただくこととなりました。「養豚場の臭気問題」、「市立病院の運営」の課題については、早期解決を目指し、そして、皆さんに約束した公約については、市益、市民益を行政判断の基本として実施し、三笠市の発展に向けて全力を挙げて取り組んでいきます。

さて、国内においては、昨年も大型の台風が数多く上陸し、各地で大きな被害が生じました。特に台風15号、19号により、関東や東北地方の広い範囲で、建物の倒壊、河川の氾濫や道路の冠水などが発生し、その後の台風21号関連でも、記録的大雨で土砂崩れなどの甚大な被害を受け、多くの方が避難所での大変な生活を余儀なくされました。

本市においても、昨年8月31日に記録的短時間大雨情報が発令され、市内では、一部の家屋で床上床下浸水が発生し、道路も冠水が確認されるなど、比較的短時間で収束しましたが、多くの市民が大雨による災害の恐ろしさを目の当たりにした時間であり、一層の防災対策とともに、新桂沢ダム、三笠ぼんべつダムの早期完成による治水対策の強化が必要であると改めて強く感じた次第であります。

また、本市においては、三笠高校生レストランがオープンから一年を経過し、生徒や先生方の努力により、今でも多くの方が来訪され順調に運営しています。三笠ジオパークについては一定の整備が進み、教育観光を中心とした事業を展開し、来訪者が年々増加しており、イオン農場についても着実に農業経営に取り組んでいます。石炭の地下ガス化については、実証実験の実施に向けて、国などに対し財源確保の要請を積極的に行い、4大プロジェクトを中心にまちづくりを進めているところであります。

そのような中、市立病院の課題については、昨年、厚生労働省が統合再編の必要性のある公的・公立病院を公表し、その中に市立三笠総合病院も含まれ、今後、北海道が中心となって進める地域医療構想調に関する会議の中で一定の方向性が示されるものと考えていますが、市立病院は市内で唯一の総合病院であり、経営問題や医師確保など課題は山積していますが、市民の安全安心を守るためには、まちにとって絶対必要な機能でありますので、各種検討を積み重ね、対策に向けて取り組んでいきます。

今年の干支は、「庚子（ねずみ）」です。「新たな芽吹きと繁栄の始まり」と言われています。これまで先人が築き上げてきましたこのまちの歴史に感謝しつつ、「令和の時代」を「三笠再生の時代」

と位置づけ、新しいまちづくりに向かって、まちが輝かしく躍進できる年となりますよう全力で頑張りますので、引き続き行政に対しご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が三笠市にとりましても、市民の皆さんにとりましても、素晴らしい一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。

(広報みかさ令和2年1月号に掲載したものです。)